

## 編集後記

福岡では、例年にない空梅雨のためにダムの貯水率が日々減少しておりましたが、最近の雨で少し取り戻した感があります。皆様のお住まいの所は如何でしょうか。

さて、本研究懇談会会誌第2巻1号をお届けします。今回もお届けするのが予定よりも遅くなってしまいました。申し訳ございません。今回は、本誌の International Advisory Board のお一人であります Monash 大学の Mckelvie 博士に海外からの巻頭言へのご寄稿をお願いしました。Ruzicka 教授と Hansen 教授により創始されたフローインジェクション分析法が30年の節目を向かえさらに発展するよう期待が込められているメッセージをいただきました。国内からの巻頭言としては、名古屋大学の馬場嘉信先生よりご寄稿をいただきました。現在、ナノテクノロジーによるゲノム・プロテオーム解析と次世代医療展開という研究テーマでご活躍ですが、その根底にはフローインジェクション分析の研究で学んだ事が生かされているとのことです。また、会員の皆様に本誌に親しみを持っていただく事を目指して設けております解説の欄には、岡山理科大学の善木道雄先生にサイクリック FIA についてご寄稿いただきました。僅かな量の試薬で、何百、何千という多数の試料が分析できる画期的な手法で、最近のグリーンケミストリーのコンセプトにマッチした方法論です。

そこにはいろいろな興味ある工夫がされており、今後の展開が楽しみでもあります。一線を退かれた先生方にご寄稿を願っているパーソナルレビュー欄を設けておりますが、本誌の編集委員長もしていただきました元筑波大学の河嶋拓治先生に、本号にご寄稿をいただく予定でしたが、ご都合で次号に延期させていただきました。テニスをするとき以外はおとなしくしておられ、体調はますますとのことで、次号をお楽しみにしてください。研究論文欄には、国内外から7報の論文を掲載しております。本年4月24-29日に米国ラスベガスで開催されました第13回ICFIAの会議の様子につきまして、山形大学の遠藤昌敏先生に報告欄にご寄稿いただきました。日本からの参加者数が最も多く、フロー分析に対する日本のアクティビティが高いことが窺われました。

さて、本年5月に北見工業大学で開催されました第66回分析化学討論会では、「流れを利用する新しい分析技術」が討論主題テーマに取り上げられ、その特集号が「分析化学」誌にも刊行予定されています。また、「Analytical Sciences」誌には”Advancement of Chemical Analysis by Flow-Injection and Related Techniques”の特集号が予定されており、フロー分析法並びに本会のみますますの発展を期待しております。

JFIA 編集委員長  
今任稔彦